

あ ゆ ち  
Ayuchi  
[No.93/2022.10]



「習作、スナック菓子の模型」 斉と公平太さん作

### ブームのきっかけは企業!?

今回のブームが起きるまでの流れを、市橋さんに伺って見た。  
 その発端は、老舗ガラス食器メーカーが出したガラスコップの復刻版。  
 まず、復刻版製品と、復刻されるまでの物語などがメディアで取り上げられ注目を集めた。復刻版製品を使って飲食を提供する純喫茶や喫茶店なども登場し、さらに様々なメディアが紹介。若者世代によるSNSへの投稿とメディアでの紹介により、短期間で火がついたというのが今回の大きな流れだ。  
 ブームは、基本的に仕掛け人がいて起こるもの。ほとんどの場合、仕掛けの部分において企業が大きく関わっていると言う。人々が求めるものをリサーチしていくと、どうやら昭和のモノやデザインにたどり着くようだ。そこには当時人気があったモノの要素を製品に入れ込むことで、懐かしく新しいものとして関心を集めたいという思惑があるようだ。



レトロに昭和テイストを用いたりして、常に存在している。それが何かのきっかけで突出した時にブームとして捉えられると教えてくれた。  
 二〇二三年のブームは「若者+SNS」という、現代を象徴する組み合わせが引き起こしたとも言えるだろう。

### 世代で違う、「懐かしい」の使い方

昭和レトロなモノを愛する時、多くの人は「懐かしい」と言う。懐かしいという言葉がもつ本来の意味は、かつて慣れ親しんだモノやコトの記憶や経験に心惹かれて起きる感情や感覚のことである。



昭和に生まれ育った世代は実体験しているの、言葉本来の意味合いで「懐かしい」という言葉を用いるが、若者世代は少し違ってくる。本来なら昭和を知らないで、懐かしいという感情にはならないはずだ。だが、祖母や両親などから話を聞くことで、かろうじて自分の暮らしと結びつけて考えることができる。また、メディアから情報として入ってきて共有しているの、経験によるものではないが、昭和のモノを見たらかわいいと言ったことが当たり前前感覚になっている。さらにおもしろいのが、カッコイイやカワイイといった意味合いも含めて使っていることだ。同じ言葉を使っている、そこに含ま

### 昭和は、どんな時代だった?

六三年続いた昭和とは、どんな時代だったのだろうか。

市橋さんに聞いてみると、「大きな変化があった時代」と教えてくれた。日本は戦争で荒廃するが、戦後、急激な復興を遂げていく中で、多様な文化やモノが生まれた。その代表的なモノの一つが、電化製品である。電化製品の登場により、人々の暮らしは大きく変化していく。



# 懐かしくて、新しい!? 昭和レトロ

最近よく耳にする「昭和レトロ」。復刻版の商品をはじめ、様々な昭和時代のモノやコトが巷を賑わせています。その魅力とは? 昭和日常博物館の館長である市橋芳則さんに、お話を伺いました。



### 二〇二三年のブームはSNSから!?

クリームソーダ、花柄のガラス食器、純喫茶、フィルム写真、昭和のまち並みが再現されたレジャー施設など。昭和時代を華やかに、楽しく彩ってきたモノやコトが今、若者の間で「エモい」とブームになっている。



オリエンタルビル 日本最古の屋上観覧車 昭和31年



昭和日常博物館 市橋さん

「エモい」とは現代の若者言葉で、エモーショナル(英語で感情的なという意味)から派生したとも言われ、なんとも言えないほど心が動かされた時などに使われる俗語。特にノスタルジーや趣が感じられた時によく使われているようだ。今、若者世代が注目しているのが、復刻版はもちろん、「ニューレトロ」と呼ばれる昭和に流行したモノをアレンジした製品。そういった製品の映え写真を自分たちのSNSで紹介するようになり、どんどん盛り上がり、今回の昭和レトロブームは到来した。ただ、ブームは今回が初めてではない。平成時代に、昭和大流行は複数回起きていた。



「昭和レトロは、ジャンルとして確立されている」と言う市橋さん。復刻版の製品が作られる歴史は結構長く、そこか

堀川にかかる桜橋 昭和12年竣工



去のモノを掘り出し、見つけた」という喜びや感動もあるのだろう。それは、初めて電化製品を目にした昭和の人々が感じた感覚と似ているのかもしれない。

では、若者たちは、昭和レトロの何に魅力を感じているのだろうか。自分たちの身の回りになり、新しいモノ——。この感覚が、若者世代が昭和レトロに惹かれる大きな理由の一つであることは間違いない。



例えば、花柄のガラスコップは、カラフルな色づかいやデザイン、フォルムに、今の時代にはない、やわらかさやぬくもりを

感じるという。またフィルム写真は、スマートフォンなどで撮った写真と違い、撮り直しはきかず、現像するまで出来栄は確認することができない。そんな手間がかかる、どこか完全ではないところに味わい深さを感じているようだ。

技術がどんどん進化した、機能的でシンプルなモノがあふれている中で、人のぬくもりが感じられるレトロな雰囲気、若者たちは癒されているのかもしれない。



名古屋市営地下鉄構内 壁画 昭和42年11月

北名古屋市歴史民俗資料館 昭和日常博物館

- 開館時間 午前9時から午後5時 (入館は午後4時40分まで)
休館日 毎週月曜日(祝日は開館)、館内整理日(毎月末日)、特別整理期間、年末年始
入館料 無料



取材・撮影協力 / 北名古屋市歴史民俗資料館 (★昭和日常博物館で撮影したもの)
参考資料 / 昭和路地裏大博覧会(市橋芳則著)(株)河出書房新社発行) 昭和少年少女ときめき図鑑(市橋芳則+伊藤明良著)(株)河出書房新社発行)
昭和レトロブームの次は?Z世代流行中の昭和レトロ、平成レトロ、輸入レトロを徹底解説(インターネット記事より)ほか

Table with 3 columns: 前期 (戦前・戦中期), 中期 (戦後期・高度経済成長期), 後期 (経済マイナス成長～バブル経済期).



ここで、昭和の変化の大きな流れを見てみよう。電化製品が普及していく過程とともに、前期・中期・後期と約二〇年ごとに、大きく二つの期間に分けることができる。

今回の注目年代は、ココ! 機能の進化とともに、デザインも変化していった電化製品。冷蔵庫や炊飯器、洗濯機などの電化製品が登場した昭和30年代当初は、多くが白色であった。昭和40年代頃から、赤や緑・黄色などカラフルな色が用いられるようになり、特にキッチン用品を中心に花柄が台頭。

「なかったモノが現れた」昭和という時代。初めて見るモノ、使うモノに心躍らせ、暮らしがより便利に豊かに潤っていった。新しいモノの登場により人々は未来に希望をもち、ワクワクがあふれていた時代であった。

再評価されて、また日の目を見たモノに、若者世代は自分たちなりの新しい価値観を見出し、受け入れていく。新しいモノが生まれにくい時代の中で「自分で過

ブームと時代背景の関係 ブームの始まりは、バブル経済が弾けた頃に起きた。そして今回は、新型コロナウイルスにより日常生活において様々な我慢が強いられ、景気も厳しい状況にある。市橋さんは、不況や時代に閉塞感を感じる時に、人々は昭和のモノに注目すると言う。新しいモノへの期待感が減少する中で、新しいモノを作りだそうとするよりも、過去に人気のあったモノを再評価して世に出すという動きが生まれてくると。



子供の頃、応援している中日ドラゴンズの試合の様子を知りたくて、試合が行われた次の日は新聞を読んでいた。テレビ中継もありましたけど、すべての試合が放映されるわけではありません。また、ラジオは起こっている映像を想像しながら聴く感じでしたから、試合の詳しい内容までなかなか知ることができなかったもので、活字でもう一度しっかり確認していました。

現在は、インターネットの普及により様々な情報を手軽に得られますが、それまでは一番情報を手に入れられる手段は新聞でしたからね。事実に至るまでの経緯が詳しく書かれているので、スポーツに関することに限らず読むことが多かったです。

新聞記者時代は、事件、事故、まちの問題など、とにかく記事がたくさん書きました。岐阜に赴任していた時に、まちの問題で珍しいものがありましたよ。警察の担当者から「少し変わった落し物が届いたから来る？」って言われて行ったら、なんとヤギがいたんです。どこからか逃げてきて、鎖をつけたまま国道を歩いていました。ニワトリが届けられたこともありました。生き物だけど落とし物として扱われているのがおもしろくて、小さな記事にしましたけど、写真を撮るのが大変で

したね。特にニワトリは逃げ足が速いので(笑)。

記事を書く時に最も心掛けていたことは、わかりやすいシンプルな文章で伝えることです。新聞は事実を伝えるものだから、記事を読んだ人が百人いたら、百人が同じように受け止められるものでなければいけません。解釈の余地があつては困るので、新聞の文章はすごくシンプルです。

そのシンプルな文章は、子供達の読解力の向上をサポートするのにも最適なツールだと思っています。私達が子供の頃は、小説などを読んで「このときの主人公の心情を語れ」みたいな、行間を読み取る力が読解力と教わったイメージがあります。

ですが今は、文章の構造から事実をきちんと読み取る力のことも指しているようです。それは、接続詞を飛ばしてキーワードだけを拾い読みし、文章が表現している事実をきちんと読み取れない子供達が増えてきているからなんです。キーワードだけで理解

した気になっている。しかし、逆の接続詞が入っている場合は、まったく意味が違う



## 新聞は、時代を映す鏡であり、歴史の第二稿と想っています。

大島宇一郎 (株式会社中日新聞社代表取締役社長)



### ■大島宇一郎 プロフィール

1964年、名古屋市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1987年に中日新聞社に入社し、名古屋本社岐阜総局に勤務。以後約18年、新聞記者として現場を走りまわり、2013年に取締役・管理局長に。その後、2015年に常務取締役、2017年に代表取締役社長に就任。高校時代は写真部で、現在はスマートフォンで日常生活の何気ない風景を記録するような感じで写真を楽しんでいる。

ものになってしまいます。文章を読み取る力は、あらゆる教科の基本でもありま

ので、きちんと身に付けることが大切だと考えます。今やニュース記事はインターネットでも配信され、いつでもどこでも読むことができます。YouTubeやTicTokなどではテレビニュースの解説などが動画配信されています。しかし、取得した情報をビジネスやライフスタイルに役立てたいと考えている方にとつて、同じインターネットでも動画より文字から得る情報のほうが、量的にもスピード的にも優位だと思っていらいっしょの方が多くいます。

さらに、同じ文字情報を得るにしても、紙とデジタルのどちらのほうが記憶の定着率が良いかという調査では、紙媒体のほうが良いという結果がでています。そういう意味で、書籍などの紙媒体を、情報の取得手段として選ばれる方も意外と多いんですよ。

では人はなぜ情報を求めるのか。知らないことを知った気になるため、自分の生活や仕事に役立てるため、と様々な理由があります。役立てようと

思うなら、記憶に残っていたほうが早く使えますよね。確かに、分かなければインターネットで検索すればいいんですけど(笑)。記憶に残っているものを上手に使えたら、生活はもっと豊かになるし、仕事の効率も上がります。手軽に便利に使いたい時はデジタル。しっかりと覚えたい時は紙。というように、古いや新しいという感覚だけで判断するのではなく、役割や目的に応じて使い分けていってほしいですね。

ニュースを伝える側としても、大勢の方に早く伝えられるというスピード感においては、やはりデジタルです。我々も、紙とデジタルを有効に使分けしていくことが必要だと考えています。

新聞は、常に時代を映す鏡です。一面に掲載されるニュースだけでなく、地方版で紹介されるような地域の暮らしや営みも含めて、歴史を記す最初の原稿だと思っています。そして、「今の時代全体をきちんと映せているだろうか」ということを、常に自問自答しながら作っています。

真実に足るところまで取材を行い、信じたいものだけを記事として新聞に掲載していますので、信頼できる情報源として価値を見出してもらい、皆様に選んでいただくと嬉しいんです。―談―

ピアニストとして活躍する柳河瀬貴子さん。ソロコンサートなどの活動をしている時、聴きなれないクラシックの曲を、本当に皆さんに楽しんでもらっているのだろうか、押し付けになっていないだろうか、と悩んだ時期があったそうだ。

「初めてクラシックに触れる人にも、小さなお子様にも、もつと気軽に楽しんでもらいたいという気持ちで、どんどん強くなりましたね」

そして二〇一〇年、愛知県立芸術大学の仲間とともに『ピッコロオルクスタ』を結成。小さなオーケストラとして、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルートという楽器編成で演奏活動をスタートする。

「一つの楽器では限られてしまう表現も、四つの楽器の音色が重なり合うと幅も広がって、とても美しいものになります。演奏していても、アンサンブルは楽しいです！」

コンサートでは、クラシック、映画音楽、童謡、アニメ音楽などどこかで耳にしたことがあるような曲を披露。すべての曲を柳河瀬さんが編曲しているが、それぞれの楽器の魅力が伝えられるようにするのは、なかなか



か難しい。特にクラシックは聴きやすい曲を選曲し、演奏時間を五分以内にとまとめることで飽きられないようにし、少しでも興味を持つてもらえるように工夫している。「コンサートでは、小さなお子様でもわかるように、曲の説明やイメージを映像（絵）で映しています。より音楽に親しんでもらえる演出にもこだわっています」

すべてが皆さんに喜んでもらうために。柳河瀬さんが創り出すコンサートは、アットホームであたたかい雰囲気にも包まれている。

「音楽は、音を楽しむ」と書きます。感じ方は人それぞれ。どんなふうにもイメージしていいので、その時に感じたことを大切にしたいなと思います」

毎年、オペラ歌手の方をゲストに迎えて行う夏のコンサート。今年は、ずっとやりたかったコンテンポラリーダンスとのコラボも実現。どんなステージになるのか、ワクワクが止まらないうと、開催前の心境を目を輝かせながら話してくれた。好きなことができて幸せと言う柳河瀬さん。これからはずっと元気に音楽の素晴らしさを伝え続けていく。

るだろう。

「作られた時代の最先端技術の結晶ですからね。そこから技術が発展していくので、古いモノから学ぶことは多いです」

だが、保存するだけでなく、どう有効活用していくかが大切だと言う大橋さん。今年の三月に瀬戸市の旧山繁商店の建造物群の見学会を行った際に、見学者に保存と活用に関するアンケートを実施。



それに基づき、人が集う賑わいのある場所にするためのアイデアを市の文化課に提言した。産業遺産の保存を町おこしと繋げていくことで、その魅力を伝えられるとともに、保存・維持していくための資金源を生むことにもなると教えてくれた。

「使わなくなったモノは捨てられてしましますが、実はすごい価値があるかもしれない。だけど、持ち主はそうは思っていないんですよね。だから見つけ出して、文化財と同じように調査・研究し、伝えていくことが我々の活動です」

と同じく副会長の浅野伸一さん。産業が遺産になるという認識がされていなかった頃から、企業に古い機械や道具、装置などがないか手紙で問い合わせる情報を集めていた。その中から価値あるものを探し出す。まさに、産業遺産保存活動の先駆けと言えます。

モノ自身が語りかけてくるような気がします。そこに込められた、最先端のモノを作り、日本経済を作っていくんだという、関わった人達の意気込みみたいなものが（浅野さん）

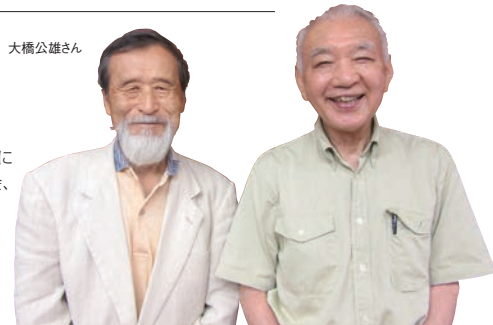
技術は積み重ね。今日の進化が、未来の技術を作っていく。技術革新において、過去のモノを知ることが大切であると最後に教えてくれた。



名古屋で唯一の現存。庄内用水元杖樋門

浅野伸一さん

大橋公雄さん



## 捨てられていくモノに価値がある!?

### 過去の技術の積み重ねが今をつくっている。

中部地区産業遺産の調査、研究、保存活動  
中部産業遺産研究会  
第30回助成(団体)

前身の「愛知の産業遺産調査・保存研究会」より名称を「中部産業遺産研究会」とし、1993年に発足。現在、個人会員122名、法人会員3団体。会員の研究発表の場でもある定例研究会、見学会、シンポジウムやパネル展などを開催。会報や研究誌をはじめ、「あいちの産業遺産を歩く」「ものづくり再発見」などの書籍も発行。現在は、これまでとアプローチを変え、作り手にスポットをあてた書籍を執筆中。若い人や女性にも興味を持ってもらえる活動を目指す。

## 皆さんに喜んでもらいたい!

### その想いで演奏活動を楽しんでいます。

クラシック音楽の音楽会の企画・開催  
柳河瀬貴子さん  
第31回助成(個人)

4歳の時に音楽教室に通い、小学校1年生頃から作曲を学ぶ。小学校4年生の時にアメリカなど海外での演奏会を経験。毎年、夏にコンサートを開催。2014年からの名古屋市立猪高小学校をはじめ、名東区の小学校6校でも音楽教室ふれあいコンサートを開催。小学校では子供たちにリコーダーで演奏に参加してもらったり、指揮を体験してもらったりなど、一緒に楽しめるようにしている。現在は、尾張旭市や名古屋市内の保育園や児童館などで演奏会を行うなど、活動の幅を広げている。



2022年 5月

- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体  
第94回定期演奏会(豊川市文化会館大ホール(豊川市))
- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体  
「修羅マクベス夫人」(栄能楽堂(名古屋市中区))
- ナゴヤディレクターズバンド 第8回助成・団体  
第52回定期演奏会「吹奏楽による世界の舞曲」  
〔愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- 森 克徳さん(陶芸) 第4回・個人  
森克徳陶芸展(松鶴園2階美空間「松遊」(西尾市))

2022年 6月

- 劇団名芸 第30回助成・団体  
天白文化小劇場ファミリーステージ「オズの魔法使い」  
〔天白文化小劇場(名古屋市中区)〕
- 東海メールクワイアー(男声合唱) 第7回助成・団体  
第62回定期演奏会 ～ウィーンの調べⅡ～  
〔愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- 第44回日本新工芸展(松坂屋美術館(名古屋市中区))
- 森 克徳さん(陶芸) 第4回助成・個人  
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人
- イミック新子さん(国際文化交流、絵画作品の発表) 第32回助成・個人  
ギャラリー名芳洞企画 第23回4angels 2022  
〔ギャラリー名芳洞(名古屋市中区)〕
- 掘龍太郎さん(彫刻) 第11回助成・個人  
第51回東海日彫展「酒場にて」  
〔愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区)〕
- 大橋敏彦さん(金工) 第3回助成・個人  
第48回銀葉会展「ギャラリーチカシン(名古屋市中区)」
- 森田 朋さん(銅版画制作) 第32回助成・個人  
森田朋展「ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)」
- いのこ福代さん(演劇) 第17回助成・個人  
なごや芝居の広場第六弾「ながらえ」制作  
〔瑞穂文化小劇場(名古屋市中区)〕

2022年 7月

- Office KAN(演劇) 第28回助成・団体  
Office KAN 第7回プロデュース公演「父と暮せば」  
〔昭和文化的小劇場(名古屋市中区)〕
- 名古屋朝顔会(伝統芸能) 第32回助成・団体  
「名古屋朝顔まつり」朝顔展示  
〔名城公園フラワープラザ(名古屋市中区)〕

2022年 8月

- 新城吹奏楽団 第6回助成・団体  
サマーコンサート(豊川市御津文化会館(豊川市))

仲間達の近況メモ

- 佐藤小夜子さん(モダンダンス) 第8回助成・個人  
佐藤小夜子 DANCE LABORATORY 25周年公演「東へ西へ∞/ Precious Days」〔東文化小劇場(名古屋市中区)〕
- 総合劇集団俳優館 第26回助成・団体  
夏休みファミリー劇場2022ミュージカル「あらしのよるに NEW VER」〔名古屋市芸術創造センター(名古屋市中区)〕
- 中部産業遺産研究会 第30回助成・団体  
「ものづくり中部の革新者たちⅢ」第17回パネル展と講演会(パネル展)〔名古屋都市センター(名古屋市中区)〕

2022年 9月

- 北條知子さん(音の芸術作品の制作・発表) 第32回助成・個人  
E.の準備室 サウンド・アート・コレクティブ Hojo + Kraft  
による音の展覧会〔小牧市中央図書館(小牧市)〕
- クール・ジョワイエ(男声合唱) 第25回助成・団体  
「創立50周年記念演奏会」—ジョワイエの50年、過去・現在・未来—〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- 中部産業遺産研究会 第30回助成・団体  
「ものづくり中部の革新者たちⅢ」第17回パネル展と講演会(講演会)〔名古屋都市センター(名古屋市中区)〕
- Marimbart(打楽器の演奏) 第23回助成・団体  
「打フェスタ with MARimbart Vol.X VII」, MARimbart ∞ インフィニティレクチャー& Concert〔瑞穂文化小劇場(名古屋市中区)〕

書籍・会報誌等の発行

- 東海化石研究会 第31回助成・団体  
4月…東海化石研究会誌「化石の友」67号発刊  
特集「40年ぶりの師崎層群発掘調査報告」
- 江南郷土史研究会 第3回助成・団体  
5～9月…「江南郷土史研究会会報」519～523号発行
- 小牧市文芸協会 第2回助成・団体  
5～9月…郷土文芸誌「駒来」第604～608号発行
- はんだ郷土史研究会 第19回助成・団体  
5・7月…「はんだ郷土史だより」第102・103号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体  
5・7月…「まつり通信」619・620号発行
- 野田史料館 第1回助成・団体  
5月…「野田史料館報」第163号発行
- 愛知歴史研究会 第7回助成・団体  
6・8月…「あいち歴史研究会誌」第175・176号発行
- まつり同好会 第25回助成・団体  
7月…「まつり通信」620号発行

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

「競技登山で重要なのは、チームワークと連携です。一番大切にしているのは、助け合いですね」  
という部長の都築泰介君。三泊四日で行われるインターハイでは、四人が一組になって行動。体力、テントの設置、山岳の工程計画書、装備、読図など様々な項目をチェック

「体力は財産」という言葉があるように、登山の基本はとにかく体力です」  
と口を揃えて言うのは、校長であり全国高等学校体育連盟の登山専門部長でもある鈴木雅文先生と、顧問の犬塚基志先生。週五日間の部活動は、約四キロのランニングと歩荷で始まる。歩荷トレーニングでは、学校の倉庫に眠っている参考書など二〇キロ分をザックに詰めて背負い、校舎の一階から四階までを平均一〇〜一五回往復。体力づくりに余念はない。



昭和二十九年に創部された、歴史のある西尾高等学校の登山部。女子チームは平成二七年から令和三年までに五回のインターハイ出場経験がある強豪校だ。現在は男子十一名、女子四名が所属し、インターハイを目指して日々トレーニングに励んでいる。

と鈴木先生。景色もそうだが、部員達にとっては登り切った時の食事も大きな楽しみの一つになっているようだ。失敗もあるが、自分達で作るご飯は何よりもおいしい!と、笑顔で教えてくれた。  
「仲の良さ、結束力には自信があります!」  
という都築君を中心に、まずは秋の新人大会の優勝を目指す。

「部員達には、まわりの景色を楽しむように言っています。自然と一体化すると言っていると、ちよつとカッコつけだけでも(笑)」  
と鈴木先生。景色もそうだが、部員達にしっかりと準備していれば、自分達が進んでいくのだから、目的の地まであと何分かかるのかなどがわかり、気持ちに余裕がでてくるからだ。余裕があれば楽しみ方も広がる。

され点数が競われる。評価対象の中には登山中、前を歩く人と一メートル以上離れたら減点というのもあり、チームでお互いの体調を見ながら声を掛け合うなど、チームで動くことを日頃から意識している。



どこにも負けない結束力で、インターハイ出場を目指します!

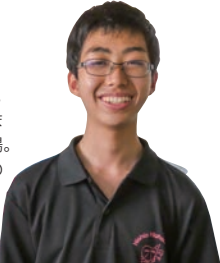
登山部  
愛知県立西尾高等学校  
第32回援助(高校生)

現在、犬塚先生をはじめ登山経験者で様々なノウハウを持つ非常勤講師の方を含め3名で指導。学校内でのトレーニングに加え、1泊2日～3泊4日の合宿も年に数回実施。女子チームは、昨年まで3年連続でインターハイに出場。男子チームは昨年東海高等学校総合体育大会(県大会)に出場。犬塚先生は、女子・男子ともに頑張ればインターハイ出場を狙える位置にいると言う。これからの活躍が楽しみだ。

校長の鈴木雅文先生  
顧問の犬塚基志先生



部長の都築泰介君



「習作、スナック菓子の模型」  
縦40×横10×高さ40cm  
紙・アクリル絵の具

● 作者の言葉  
格子状の構造を持つスナック菓子の模型。自分にとって感覚が複合的であるというこの象徴です。

表・紙・作・品

斉と公平太さん作 (第31回助成)

「習作、スナック菓子の模型」  
縦40×横10×高さ40cm  
紙・アクリル絵の具

● 作者の言葉  
格子状の構造を持つスナック菓子の模型。自分にとって感覚が複合的であるというこの象徴です。

表・紙・作・品

斉と公平太さん作 (第31回助成)

版用で作成しました。

編集後記

最近、「かわいい」と思う雑誌や文房具は、昭和テイストのデザインが多いことに気づきました。手に取るのは、懐かしさからなのではないかと(笑)。  
古くなってしまっても、価値や魅力がゼロになるわけではないんですよね。やはり「いいモノはいい」として、人々の心のどこかに引っかかっているのではないかなと。そして、それをまったく知らない人の心までも掴む力を持っているのではないかなと思えました。

## 第33回(令和4年度)

# 助成および援助対象先決定 (敬称略)

コロナ過でも笑顔と元気をもたらしてくれる様々な文化や教育。  
選考委員会の厳正な審査の結果、今年度も新しいメンバーが加わりました。

### 一般助成 個人

菅谷瑞恵……………インターネット配信による戦争体験の手記の朗読  
福田律子……………城西文化センターピアノ教室  
芝居屋杜川リントロウ……………地域での音楽劇・ミュージカルの上演活動  
内ヶ島幹子……………アートと人と交流と  
岡田和奈佳……………デザイン・印刷を通じた表現を拡張するための作品制作実験  
寺尾晴美……………絵画造形、ミニ絵本の制作、絵画教室  
大坪與七郎……………染色(暖簾・のぼり)を通して日本や海外に「日本の伝統」を伝える  
早川勝大……………知多地域の山車囃子の継承支援に関する研究

### 一般助成 団体

特定非営利活動法人 菰野ピアノ歴史館……………「観る、弾く、聴く」ことのできるピアノ館  
名古屋ビクトリア合唱団……………合唱団の演奏会活動  
半田市民管弦楽団……………音楽のすそ野を広げる目的で、楽しいファミリーコンサートを開催  
プランタン管弦楽団……………愛知県(主に名古屋市)で活動する社会人アマチュアオーケストラ  
瀬戸ピース合唱団……………市民による舞台芸術活動  
検藤流棒の手保存会……………検藤流棒の手演技の維持および後継者の育成  
彫刻村……………木彫の制作、造形教室、野外彫刻展、美術館での木彫展示発表  
Barrack……………現代美術展を準備・実施・運営  
詩人 茨木のり子の会……………詩人 茨木のり子の作品と心について学び合い受け継ぐ  
苔むす会……………コケに関する調査研究、環境学習、普及啓発

### 高校生の文化および体育活動への援助

愛知県高等学校文化連盟……………歌舞伎鑑賞会  
愛知県高等学校文化連盟……………狂言鑑賞教室  
名古屋市立北高等学校……………美術部  
愛知県立江南高等学校……………吹奏楽部  
愛知県立愛西工科高等学校……………陸上競技部  
愛知県立大府高等学校……………硬式野球部  
愛知県立新城有教館高等学校……………卓球部



あゆち第93号 ● 2022年10月

発行:公益財団法人 愛銀教育文化財団  
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号  
愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)  
<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

